

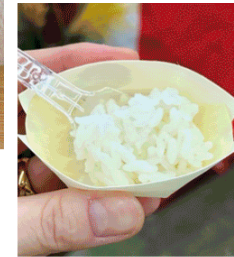
福島県知事オアフ島訪問 県産米「天のつぶ」の魅力PR

福島県の内堀雅雄知事が、10月28日からオアフ島を訪問した。3日間の滞在日程の中で、内堀知事は28日、福島県産品の輸出拡大に向け、カメハメハ・ハイウェイのマルカイ・ホールセールマートを訪問し、福島県オリジナル米「天のつぶ」の店頭プロモーションを行った。



福島県産米「天のつぶ」の試食を配る福島県の内堀雅雄知事
試食とともに配られた福島県伝統工芸品「白河だるま」

プロモーションで配られた「天のつぶ」。しっかりした粒感で、冷めても美味しいことが特長



オアフ島ではマルカイやドン・キホーテなどの系列4店舗で販売

内堀知事は自ら米の試食を配り、集まった創立100周年を迎えるホノルル福島県人会のメンバーや地元住民らと交流を深めながら、福島県産米の美味しさや品質の高さをPRした。10月から着任した兒玉良則ホノルル日本国総領事も姿を見せ、内堀知事らと挨拶を交わした。

福島県は、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス(PPIH)=本社・東京都=と連携し、ハワイや西海岸を始めとした米国内での福島県産米の輸出・販売拡大に向けた話し合いを進めている。PPIHは

米国や日本国内で「ドン・キホーテ」などの量販店を運営しており、米国内ではハワイやカリフォルニアなどで計65店舗を展開。福島県産品の取り扱いについては、米国への米輸出の他、東南アジア諸国へ桃などの果物の輸出を手掛けている。今年1月、両者は福島県産米の年間輸出量100トンを目指すことで合意し、現在、その実現に取り組んでいる。

これについて、内堀知事は同日午後、PPIH松元和博取締役兼専務執行役員CMO・海外事業統括責任者兼北米事業責任者とホノルル市内のホテルで会談を行った。会談後の記者会見で内堀知事は、「今後も福島県産品の販売促進を継続する方針で合意した」とし、近くPPIHと県産品の輸出拡大を中心とした協定を締結する意向を示した。

また、福島県産米の安全性などについて、内堀知事は次のように説明した。

「福島産の全ての米、年間1,000万袋以上について放射性物質の『全量全袋検査』を実施してきた。8年以上、基準値を超過する放射性物質の検出はゼロ。学校給食では震災前より多くの県産米が使用されている。福島で多く作られている『天のつぶ』をハワイやロサンゼルスを始めとしたアメリカの皆さま



ホノルル福島県人会のメンバーや地元住民との交流を深めた内堀知事(左から3人目)

んに食べていただくことで、福島の復興のシンボルのひとつになるのではないかと考えている」

今回プロモーションされた福島県産米「天のつぶ」は、食味が良好な品種として、開発に15年が費やされた福島県のオリジナル米。稲がまっすぐに伸び、倒れにくいことから「天の恵みを受け豊かに実る」というイメージで「天のつぶ」と命名された。コシヒカリとひとめぼれの系譜を持ち、粘りの少ない硬めの食感で、冷めても味の変化が少ないことから、弁当やおにぎりにも最適。オアフ島では現在、マルカイやドン・キホーテなどの系列4店舗で販売されている。

(取材・文 佐藤リン友紀)



10月から着任した兒玉良則ホノルル日本国総領事(左)と内堀知事(右)



ホノルル市内のホテルで行われた記者会見で、握手を交わすPPIH松元和博取締役(左)と内堀知事(右)